

# 感染症発生動向調査委員会報告 7月

## 《今月のトピックス》

- 手足口病が流行しています。
- 風しんの流行が続いています。
- 夏休みの海外旅行先における感染症に注意が必要です。

## 全数把握疾患

7月期に報告された全数把握疾患

細菌性赤痢	1件	劇症溶血性レンサ球菌感染症	1件
腸管出血性大腸菌感染症	6件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
腸チフス	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
デング熱	1件	梅毒	1件
レジオネラ症	4件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1件
アメーバ赤痢	3件	風しん	40件
急性脳炎	1件		

### ＜細菌性赤痢＞

Shigella sonnei(D群)の報告が1件ありました。渡航先(インド)での感染が推定されています。

### ＜腸管出血性大腸菌感染症＞

6件(O157 VT1VT2 4件、O157 H7VT1VT2 1件、O157 VT2 1件)の報告がありました。このうち、1件では同居家族内発症がありましたが、感染原因は調査中です。本症は例年これからの季節に多く報告されています。家庭内での感染予防法は手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。

◆啓発用チラシ「[O157に注意しましょう](#)」(衛生研究所)

### ＜腸チフス＞

1件の報告がありました。渡航先(ネパール)での感染が推定されています。

＜デング熱＞ 1件の報告がありました。渡航先(インドネシア)での感染が推定されています。近年、日本では年間発生数が増加傾向にありますが、すべて日本国外での感染で、タイ、インド、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、ラオス、カンボジアなどでの感染が多く報告されています。

## 海外での感染症予防情報掲載ホームページ

これから海外旅行に出かける人が増えることが予想され、感染症に注意が必要です。

- [海外に渡航される方へ](#)(保健所)
- [夏休みに海外へ渡航される皆さまへ](#)(厚生労働省検疫所)
- [夏休み期間中における海外での感染症予防について](#)(厚生労働省)

＜レジオネラ症＞ 肺炎型4件の報告がありました。感染原因等詳細については現在調査中です。

＜アメーバ赤痢＞ 腸管アメーバ症3件の報告があり、すべて国内での感染が推定されています。2件は経口感染が、残る1件は性的接触による感染が推定されています。

＜急性脳炎＞ 学童の報告が1件ありました。症状は発熱(38℃以上)、痙攣と意識障害で、病原体検索中です。

＜劇症溶血性レンサ球菌感染症＞ 40歳代男性の報告が1件ありました。血清型はG群(国内の統計では、本症の起原菌ではA群の次にG群が多く報告されています。)です。感染原因感染経路不明です。

＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞ 2件の無症状病原体保有者の報告がありました。1件は国内での同性間性的接触による感染が推定されており、残るもう1件は感染経路感染地域等不明でした。

＜侵襲性インフルエンザ菌感染症＞ 70歳代男性1件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。症状は発熱、意識障害、ショックで、血液よりインフルエンザ菌が検出されています。莢膜型はe型でした。

＜梅毒＞ 1件の早期顕症Ⅱ期(梅毒性乾癬)の報告があり、国内での性的接触による感染が推定されて

います。

<バンコマイシン耐性腸球菌感染症> 1件のVanA型 (*Enterococcus faecium*) の報告がありました。中心静脈カテーテルからの感染が推定されています。

<風しん> 40件(男性27件、女性13件)の報告がありました。うち37件で予防接種歴が無いか確認できませんでした。風しんは現在流行が続いています。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。予防接種の助成が実施されています。

◆横浜市感染症臨時情報(衛生研究所)

◆横浜市の風しん予防接種助成の詳細(保健所)

### 定点把握疾患

平成25年6月24日から平成25年7月21日まで(平成25年第26週から平成25年第29週まで。ただし、性感染症については平成25年6月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

#### 1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

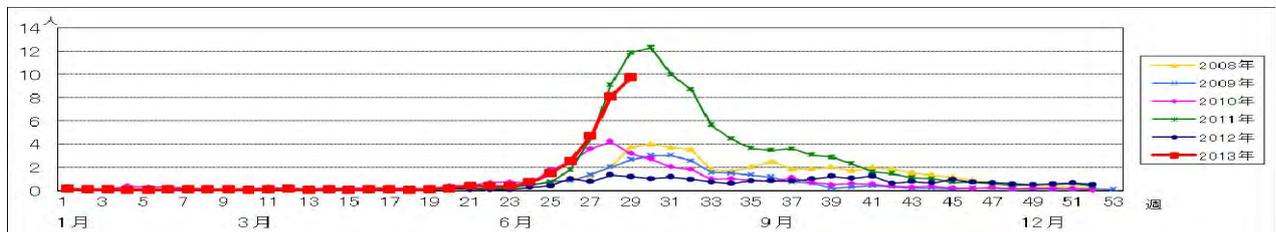


平成25年 週一月日対照表

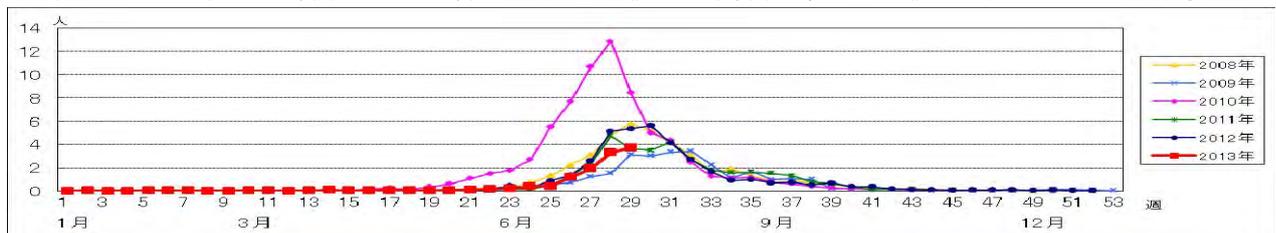
週	日
第26週	6月24日～6月30日
第27週	7月1日～7月7日
第28週	7月8日～7月14日
第29週	7月15日～7月21日

<手足口病> 第28週に市全体で定点あたり8.07と、警報レベル(警報発令基準値5.00)となりました。第29週は9.71とさらに増加しています。手足口病の原因ウイルスは、CA16やEV71が一般的ですが、今年は全国でCA6が多く検出されており、市内の病原体定点からもCA6が多く検出されています。CA6を病原とする手足口病は、水疱がかなり大きく、四肢末端に限局せず、広範囲に認められるといった臨床的特徴があり、罹患1～2か月後の爪甲脱落症も報告されています。感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、乳幼児における感染予防は手洗いの励行と排泄物の適正な処理が基本です。

◆横浜市感染症臨時情報(衛生研究所)



<ヘルパンギーナ> 市全体で第29週3.73と増加しています。区別では、栄区10.33、瀬谷区9.50、港南区7.40、緑区3.33と、4区で警報レベル(警報発令基準値6.00、警報解除基準値2.00)となっています。



<性感染症> 6月は、性器クラミジア感染症は男性が24件、女性が15件でした。性器ヘルペス感染症は男性が9件、女性が11件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が0件でした。淋菌感染症は男性が21件、女性が0件でした。

<基幹定点週報> 第27週に無菌性髄膜炎の報告が1件(6歳男児。発疹などの症状から近医にて手足口病の診断有り。その後発熱(40℃)し、髄膜刺激症状出現。病原体検索中。)ありました。マイコプラズマ肺炎では第26週1.00、第27週0.00、第28週0.00、第25週0.66と落ち着いています。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報> 6月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症9件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

## 2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

### <ウイルス検査>

7月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点42件(鼻咽頭ぬぐい液41件、ふん便1件)、内科定点1件(鼻咽頭ぬぐい液)、眼科定点1件(眼脂)、基幹定点15件(鼻咽頭ぬぐい液6件、ふん便2件、髄液6件、血漿1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎17人、手足口病11人、ヘルパンギーナ8人、発疹5人、胃腸炎1人、内科定点は発疹1人、眼科定点は流行性角膜炎1人、基幹定点は手足口病、ヘルパンギーナ各2人、無菌性髄膜炎、熱性けいれん、伝染性単核症疑い、肺炎各1人でした。

8月8日現在、小児科定点の気道炎患者とヘルパンギーナ患者各1人からアデノウイルス2型、気道炎患者1人からコクサッキーウイルス(以下Cox)A2型、発疹患者1人からCoxB3型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の手足口病患者10人、ヘルパンギーナ患者6人と発疹患者1人のあわせて17人からCoxA6型、気道炎患者4人からアデノウイルス2型(2人)、CoxA2型(1人)とCoxA8型(1人)、基幹定点のヘルパンギーナ患者2人からCoxA2型、手足口病患者2人からそれぞれCoxA6型とエンテロウイルス71型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

### <細菌検査>

7月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から6件、定点以外の医療機関等からは12件あり、赤痢菌(インドに渡航)、腸管出血性大腸菌、チフス菌(ネパールに渡航)、サルモネラが検出されました。

その他の感染症は、小児科から3件、基幹病院から3件、その他が12件でした。バンコマイシン耐性腸球菌はvanA型の*Enterococcus faecium*でした。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(7月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	7月			2013年1月～7月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	0	6	12	3	61	34
菌種名						
赤痢菌		1			2	1
腸管病原性大腸菌					2	
腸管出血性大腸菌		1	11		1	22
腸管毒素原性大腸菌					2	
チフス菌		1			4	
パラチフスA菌						2
サルモネラ		1		1	18	
不検出	0	2	1	2	32	9

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	7月			2013年1月～7月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	3	3	12	48	18	131
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1			1	1	
	T2			5		
	T4	1		9		
	T6	1		6		
	T12			4		
	T25			2		
	T28			3		
	T B3264			2		
B群溶血性レンサ球菌				1		
G群溶血性レンサ球菌						2
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌		3			9	
バンコマイシン耐性腸球菌			1		1	21
<i>Legionella pneumophila</i>			2			2
インフルエンザ菌			1	1		2
肺炎球菌			4	5	3	18
<i>Neisseria meningitidis</i>						2
黄色ブドウ球菌			1	2	4	1
結核菌						10
緑膿菌						63
その他			2			2
不検出	1	0	1	7	0	8

\*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】